

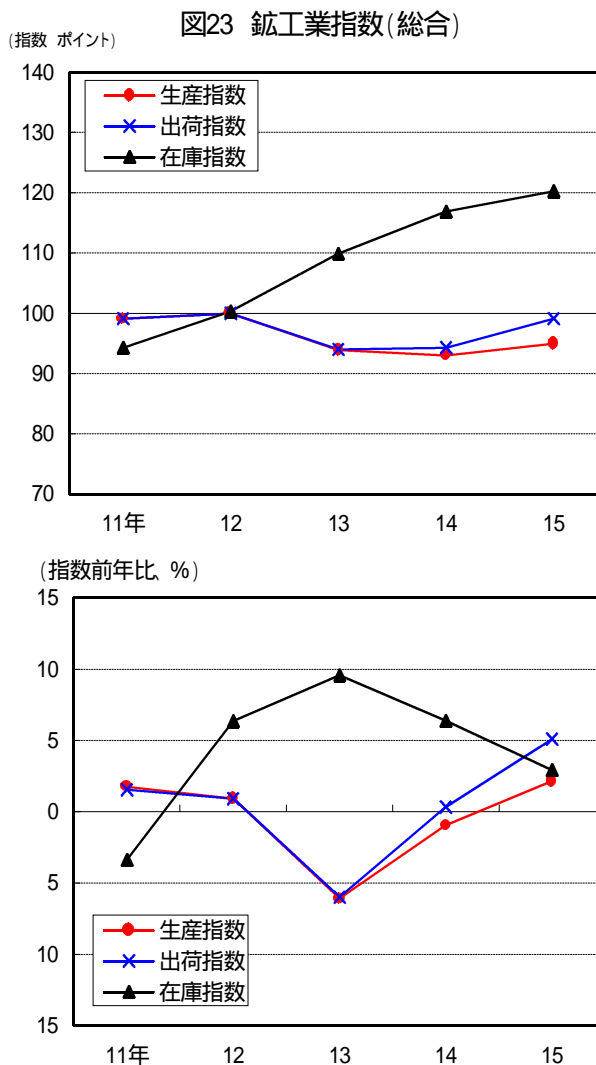
### 3 生産活動

#### (1) 鉱工業指数(総合)

平成 15 年の鉱工業指数(総合)をみると(下図 23)、生産指数は 95.0 となり、前年比 2.2% 上昇し、出荷指数は 99.1 となり、前年比 5.1% 上昇した。また、在庫指数(年末値)は 120.3 となり、前年比 2.9% 増加した。

前年比の動きをみると、生産指数は 3 年振りに前年比で上昇し、出荷指数は 2 年連続で前年を上回るなど電気機械工業、電子部品・デバイス工業を中心に生産活動に回復の動きがみられた(P25 図 28)。

また、在庫指数は 4 年連続で前年を上回った。



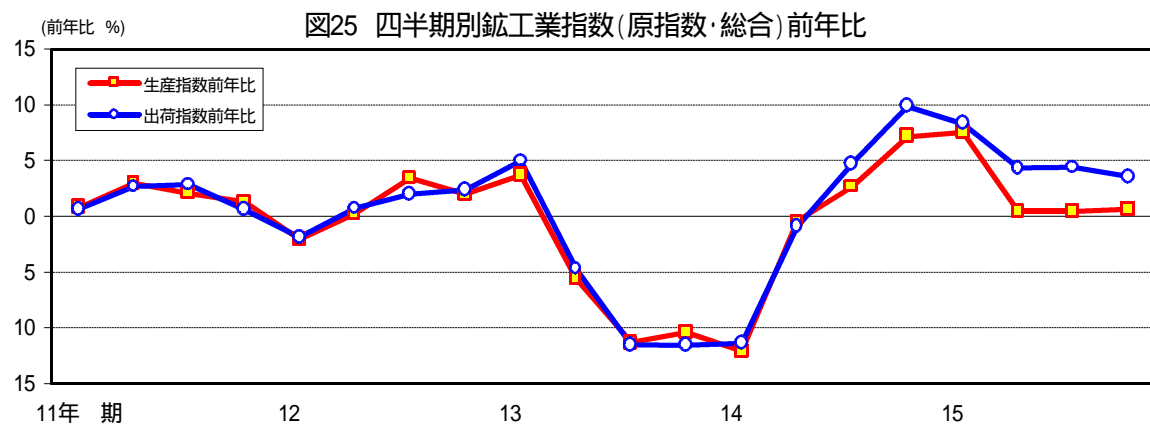
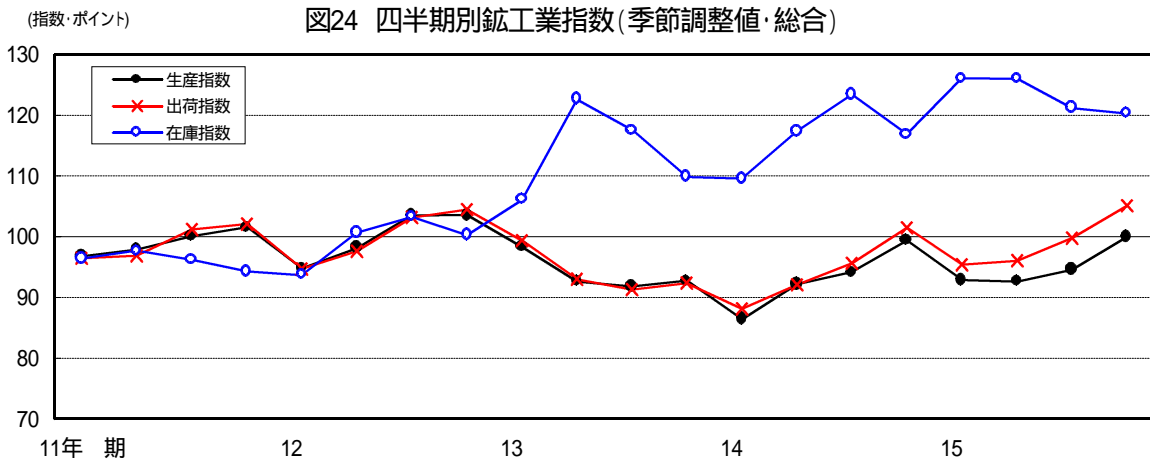
備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成

2 平成12年平均 = 100

3 生産・出荷指数は年平均値、在庫指数は年末値

四半期別の動きをみると(原指数、図 25)、生産指数、出荷指数とも 14 年第 四半期以降前年を上回る動きが 6 期連続で続いた。

これは、デジタル家電関連需要の盛り上がり等により、鉱工業全体に占めるウエイトが高い旧電気機械工業<sup>\*1</sup>を中心とした生産活動水準が高まったことによるものである。



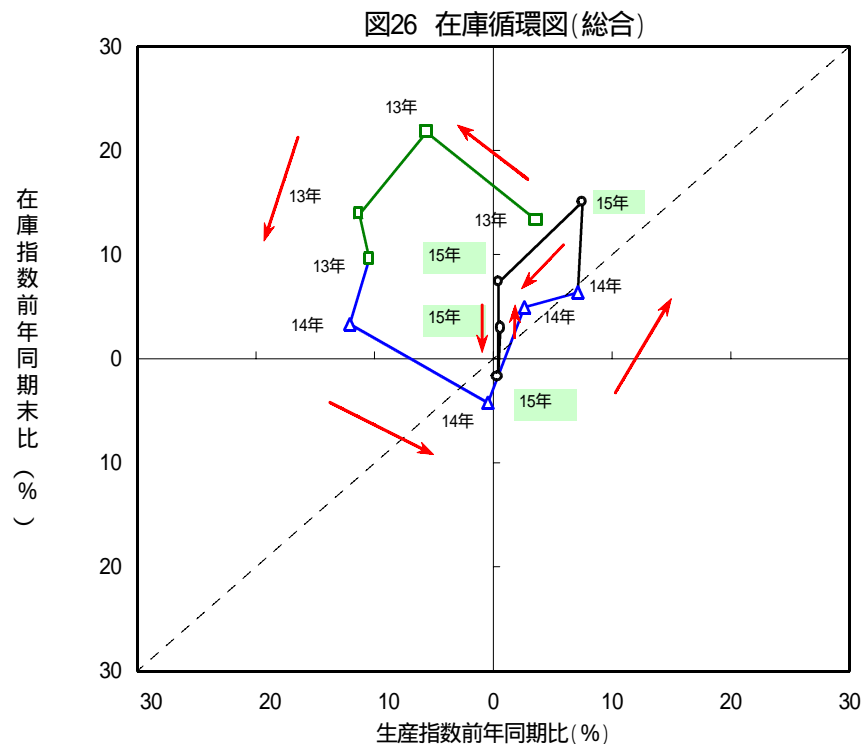
備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成  
 2 平成12年平均 = 100  
 3 生産・出荷指数は四半期平均値、在庫指数は四半期末値

\*1 平成 12 年基準福島県鉱工業指数基準改定に伴い、平成 7 年基準において電気機械工業に分類されていた「電気機械工業」、  
 「情報通信機械工業」及び「電子部品・デバイス工業」を中分類に格上げし、この 3 業種を「旧電気機械工業」とし、参考系列扱いとし  
 た。

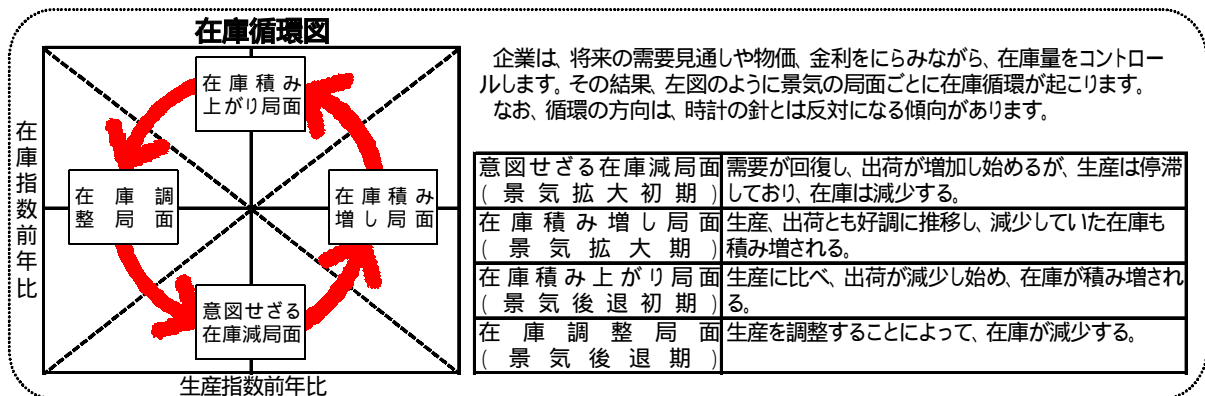
在庫循環図上で生産活動の動きをみると(図 26)、平成 15 年第 四半期は、生産が前年同期を上回り、在庫は前年同期を上回る「在庫積み上がり局面」にあり、景気の後退が懸念された。

その後、在庫循環の動きは生産指数が前年比でわずかにプラスを維持しながら在庫指数が低下し、平成 15 年第 四半期には前年比マイナスとなって「意図せざる在庫減局面」に至ったものの、第 四半期には再度在庫指数が前年を上回る動きに転じ「在庫積み上がり局面」になっている。

在庫の動きを産業別にみると、電子部品・デバイス工業や一般機械工業、プラスチック製品工業、非鉄金属工業などで在庫水準を引き上げる動きがみられた。



備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成  
 2 平成12年平均 = 100  
 3 生産指数は四半期平均値、在庫指数は四半期末値



## (2) 鉱工業指数(業種別)

本県の鉱工業を業種別にみると(図27)、機械工業、特に旧電気機械工業のウエイトが大きく、県内の経済動向全体がその動きに左右されやすい構造となっている。

なお、生産指数のウエイトが大きい主要業種の動向は以下のとおりとなった(図28)。

一般機械は、生産指数が93.2(前年比4.0%上昇)、出荷指数が89.6(同2.3%上昇)、在庫指数が151.9(同108.4%上昇)となった。

電気機械は、生産指数が110.2(前年比19.1%上昇)、出荷指数が129.4(同29.5%上昇)、在庫指数が191.1(同13.1%低下)となった。

情報通信機械は、生産指数が91.6(前年比1.1%低下)、出荷指数が101.9(同5.2%上昇)、在庫指数が87.6(同7.1%低下)となった。

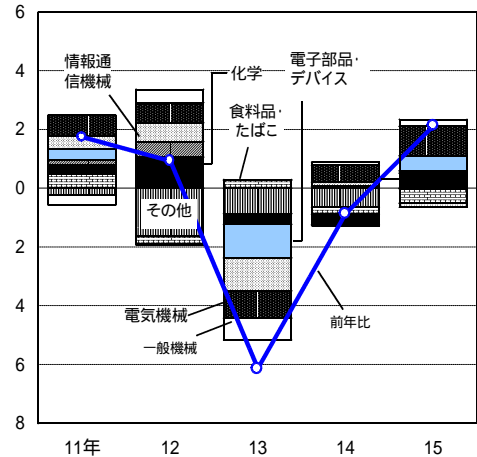
電子部品・デバイスは、生産指数が94.2(前年比5.3%上昇)、出荷指数が91.2(同4.5%上昇)、在庫指数が197.1(同49.7%上昇)となった。

輸送機械は、生産指数が101.0(前年比1.5%上昇)、出荷指数が100.6(同1.7%上昇)、在庫指数が71.3(同2.0%上昇)となった。

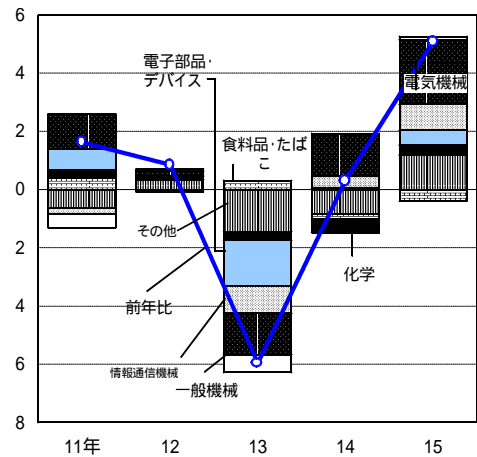
化学は、生産指数が98.4(前年比4.0%上昇)、出荷指数が95.4(同4.0%上昇)、在庫指数が139.5(同2.2%低下)となった。

食料品・たばこは、生産指数が97.2(前年比3.1%低下)、出荷指数が98.4(同2.4%低下)、在庫指数が102.3(同9.2%上昇)となった。

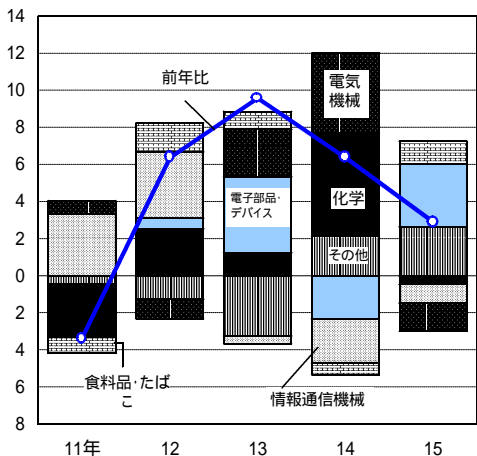
図27 鉱工業指数(前年比・業種別寄与度)  
(生産指数前年比、%)



(出荷指数前年比、%)

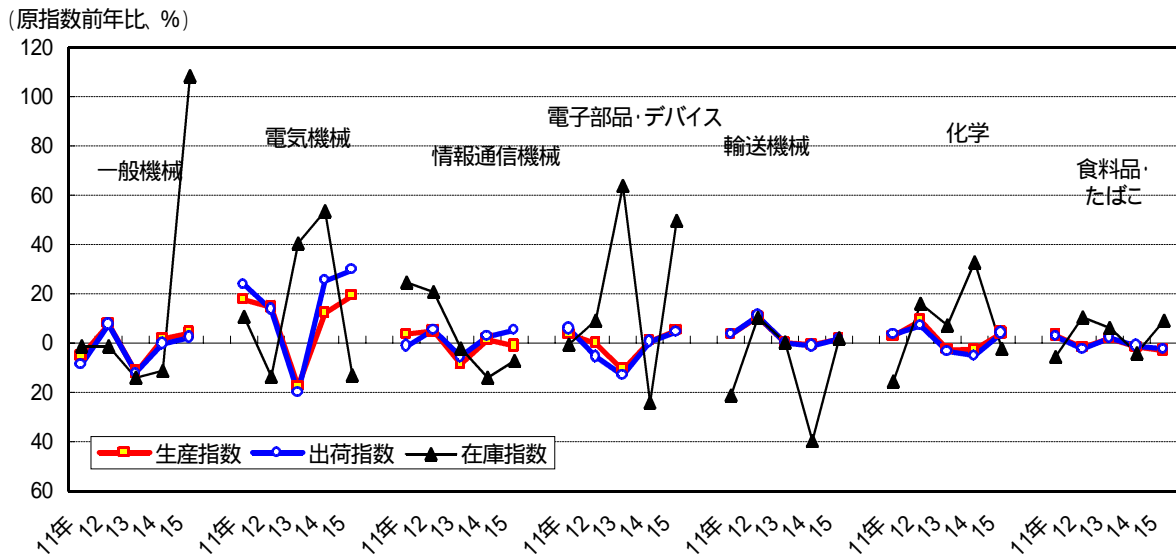


(在庫指数前年比、%)



備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成  
2 平成12年平均=100  
3 生産・出荷指数は年平均値、在庫指数は年末値

図28 鉱工業指数(主要業種別前年比)



備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成  
 2 平成12年平均 = 100  
 3 生産・出荷指数は年平均値、在庫指数は年末値

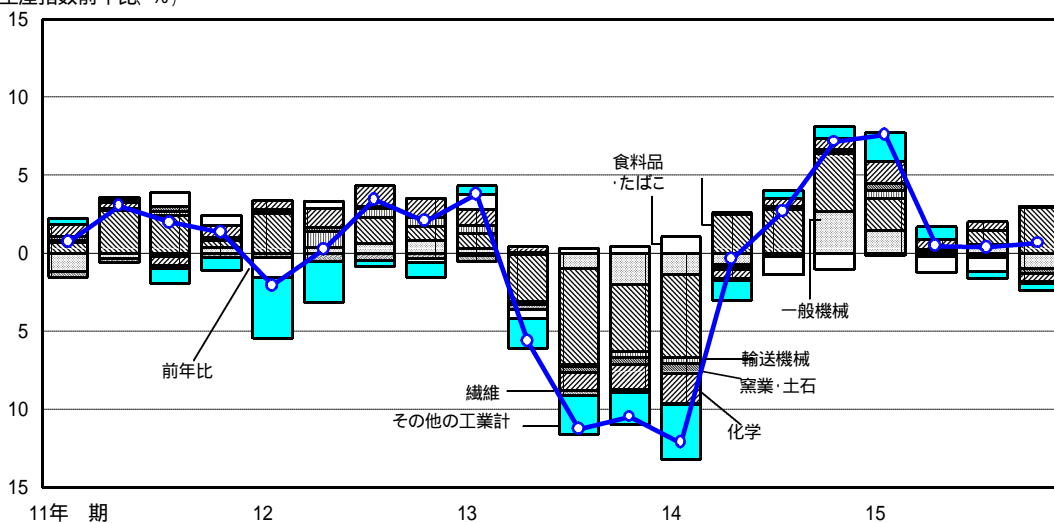
四半期別にみると(図 29)、生産指数(原指数、総合)は年間を通して前年を上回る動きとなった。業種別にみると、ウエイトの高い旧電気機械が第 四半期を除いてプラスに寄与し、特に第 四半期には他業種のマイナスを上回る大きなプラスとなった。一方、食料品・たばこは第 一 ~ 三 四半期までマイナスに影響し、第 四 半期には一般機械や化学製品、窯業・土石製品などがマイナスに影響した。

出荷指数(原指数、総合)は年間を通して前年を上回る動きとなった。業種別にみるとウエイトの高い旧電気機械が年間を通してプラスに寄与した。一方、食料品・たばこは年間を通してマイナスに影響したほか、第 三 四半期には、一般機械などの業種がマイナスに影響した。

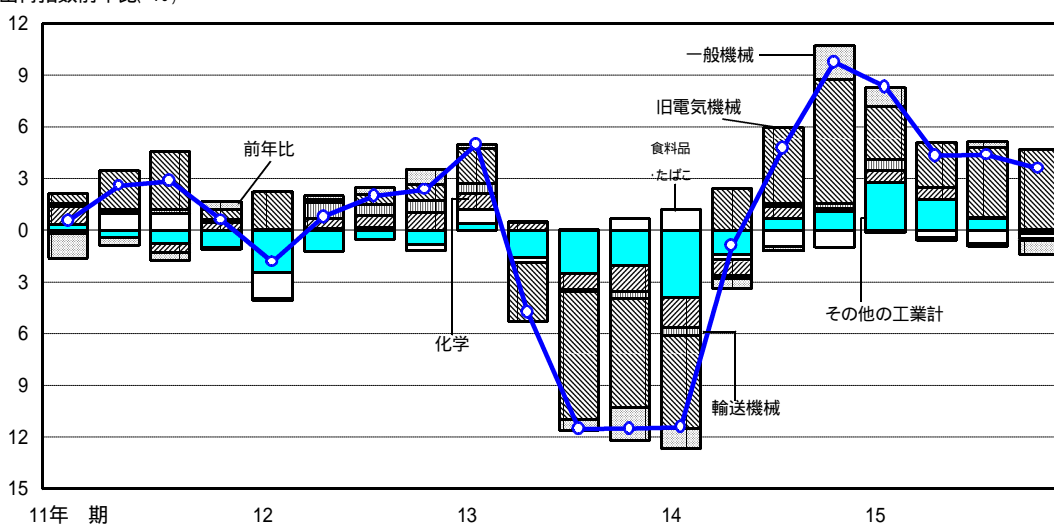
在庫指数(原指数、総合)は、第 一、二、三 四半期は前年を上回ったが、第 四 半期は前年を下回る動きとなった。業種別にみると、旧電気機械は第 一、二、三 四半期にはプラスに寄与したが、第 四 半期はマイナスに影響した。また、食料品・たばこは第 一、二、三 四半期にマイナスに影響した。

図29 四半期別鉱工業指数(前年比・業種別寄与度)

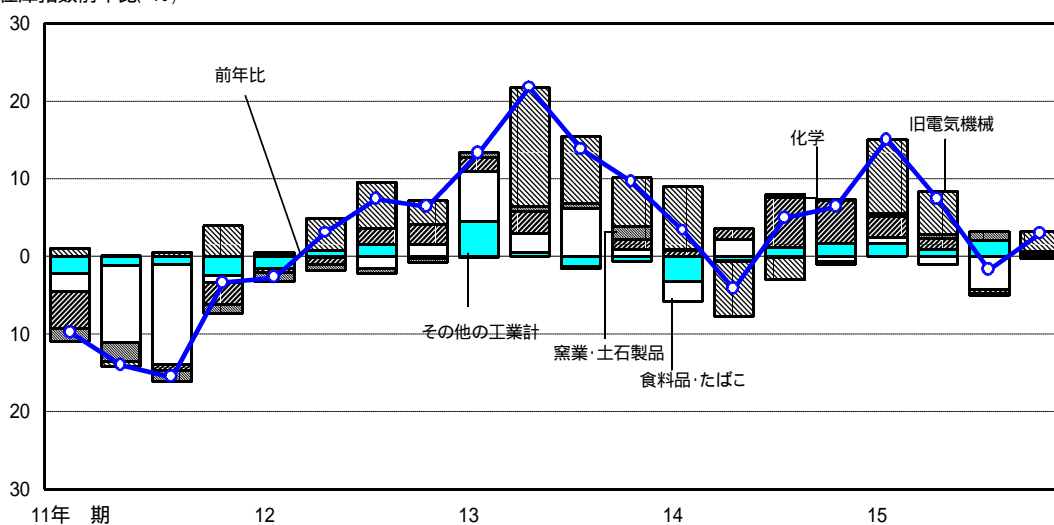
(生産指数前年比、%)



(出荷指数前年比、%)



(在庫指数前年比、%)



備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成

2 平成12年平均 = 100

3 生産・出荷指数は原指数の平均値、在庫指数は期末値

4 旧電気機械は、電気機械、情報通信機械、電子部品・デバイスの合計

### (3) 鉱工業指数(財別)

財別に鉱工業指数の動きをみると(図30)、平成15年の生産は、鉱工業用生産財や建設財が前年を上回ったが、耐久消費財、非耐久消費財、その他の生産財は前年を下回った。出荷は、その他用生産財が前年を下回ったが、それ以外の財は前年を上回っており、鉱工業生産財が増加に寄与した。

また、在庫は、非耐久用消費財、鉱工業用生産財が在庫増加に寄与した。

なお、それぞれの財別の動向は以下のとおりとなった(図31)。

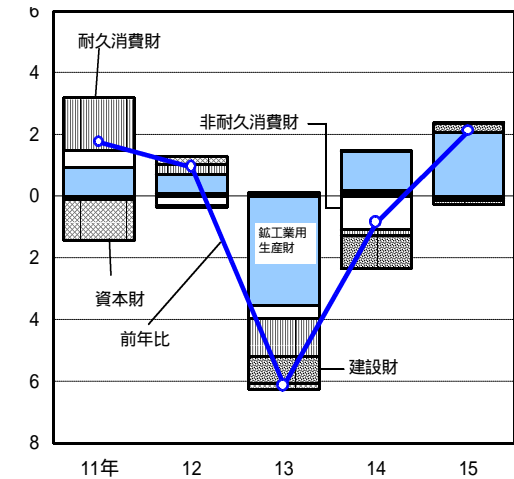
資本財は、生産指数が98.6(前年比0.3%上昇)、出荷指数が107.5(同6.2%上昇)、在庫指数が107.7(同21.7%上昇)となった。生産、出荷とも2年連続で前年を上回った。一方、在庫指数は2年振りに上昇に転じた。

建設財は、生産指数が78.5(前年比4.7%上昇)、出荷指数が78.7(同8.9%上昇)、在庫指数が76.8(同20.5%低下)となった。生産、出荷とも5年振りに前年を上回った。一方、在庫は2年振りに前年を下回った。

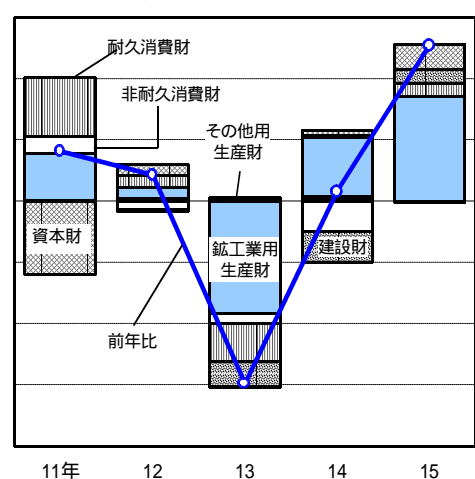
耐久消費財は、生産指数が83.2(前年比1.4%低下)、出荷指数が92.0(同4.5%上昇)、在庫指数が80.9(同12.5%低下)となった。生産、在庫は3年連続で前年を下回り、出荷は2年連続で前年を上回った。

非耐久消費財は、生産指数が93.9(前年比0.3%低下)、出荷指数が94.5(同、同水準)、在庫指数が102.5(同10.0%上昇)となった。生産は4年連続で前年を下回った。出荷は3年連続前年を下回った後、前年と同水準となった。また、在庫は2年振りに前年を上回った。

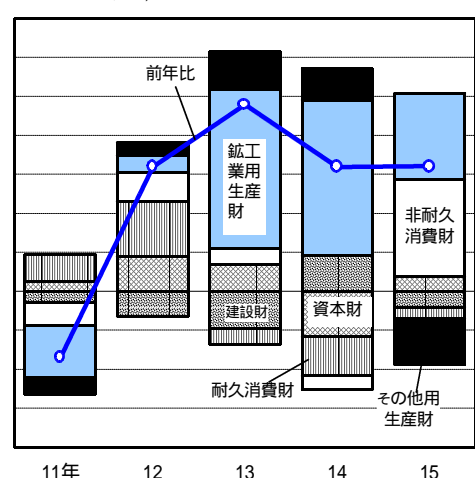
図30 鉱工業指数(前年比・財別寄与度)  
(生産指数前年比、%)



(出荷指数前年比、%)



(在庫指数前年比、%)

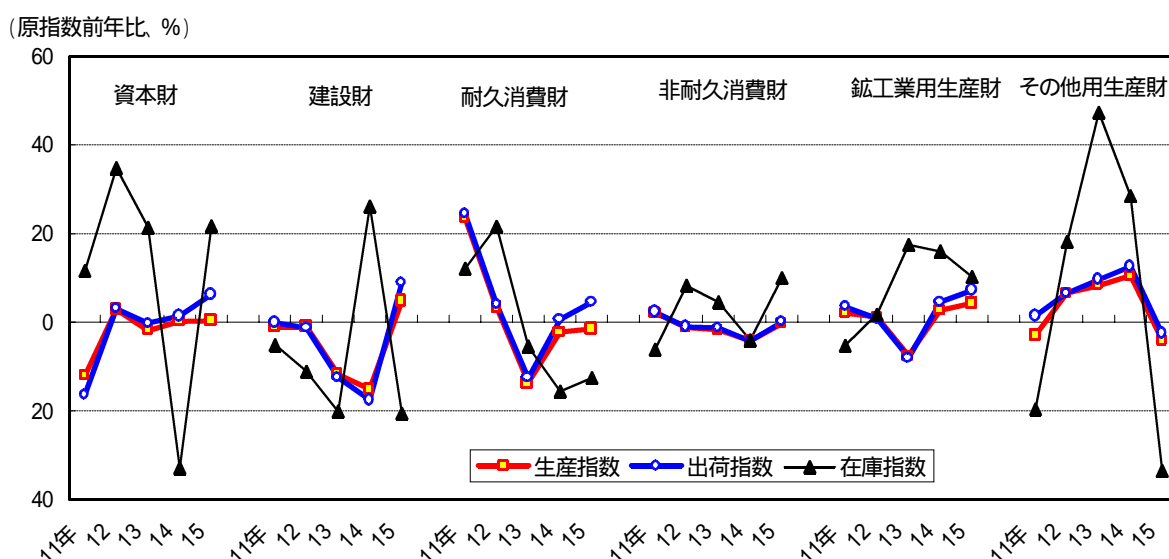


備考1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成  
2 平成12年平均=100  
3 生産・出荷指数は年平均値、在庫指数は年末値

鉱工業用生産財は、生産指数が 99.1（前年比 4.3%上昇）、出荷指数が 103.1（同 7.2%上昇）、在庫指数が 148.5（同 10.2%上昇）となった。生産、出荷は 2 年連続で前年を上回った。また、在庫は 4 年連続で前年を上回った（図 31）。

その他用生産財は、生産指数が 114.7（前年比 4.1%低下）、出荷指数が 120.2（同 2.6%低下）、在庫指数が 129.9（同 33.5%低下）となった。生産、在庫は 4 年振りに前年を下回った。

図31 鉱工業指数(財別前年比)



備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成  
 2 平成12年平均 = 100  
 3 生産・出荷指数は年平均値、在庫指数は年末値

四半期ごとの財別の寄与度の推移をみると(図 32)、生産指数(原指数、総合)は年間を通して前年を上回る動きであったが、建設財が年間を通してプラスに寄与し、資本財は、第四半期に、非耐久消費財は第一・四半期に、耐久消費財、その他用生産財は第一・四半期に、鉱工業用生産財は第四半期に、マイナスに影響したほかはプラスに寄与した。

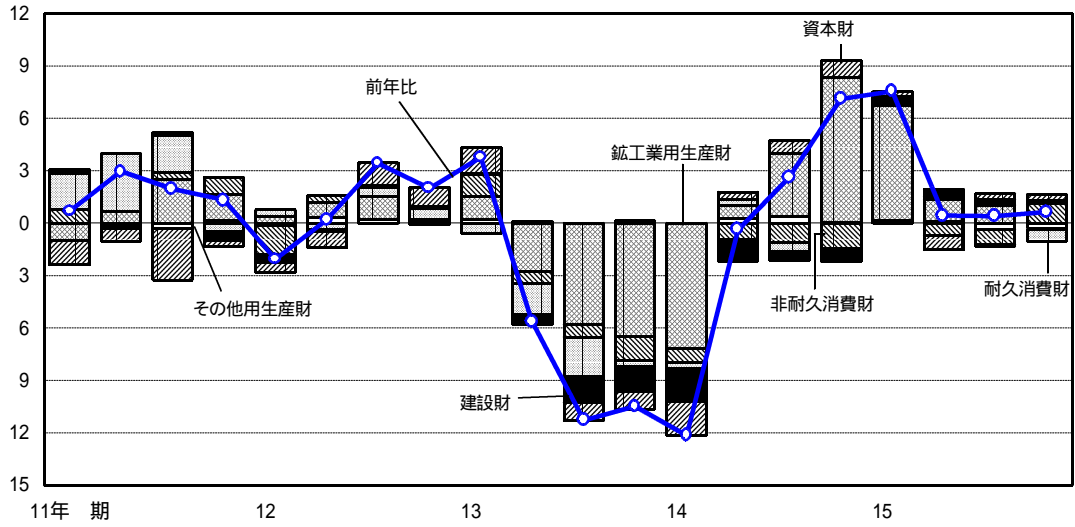
出荷指数(原指数、総合)は年間を通して前年を上回る動きであったが、財別にみると、資本財、建設財、鉱工業用生産財は年間を通してプラスに寄与し、非耐久消費財は第四半期に、耐久消費財は第四半期に、その他用生産財は第一・四半期にマイナスに影響したほかはプラスに寄与した。

在庫指数(原指数、総合)は第四半期に前年を下回る動きとなったが、財別にみると、鉱工業用生産財は年間を通して、その他用生産財は第一・四半期に、非耐久消費財は第一・四半期にプラスに寄与した。一方、資本財は第四半期に、建設財は第四半期に、耐久消費財は第四半期にプラスに寄与したほかはマイナスに影響した。

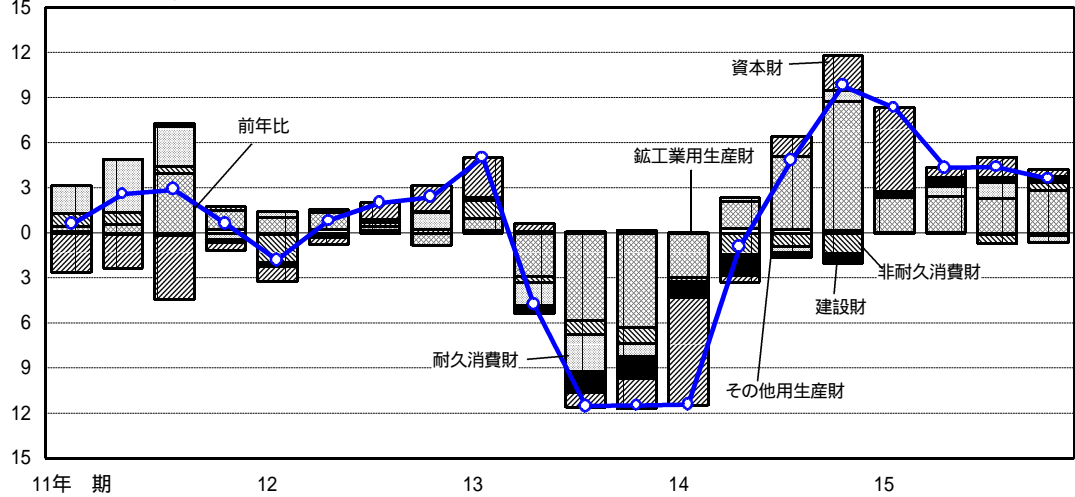


図32 四半期別鉱工業指数(前年比・財別寄与度)

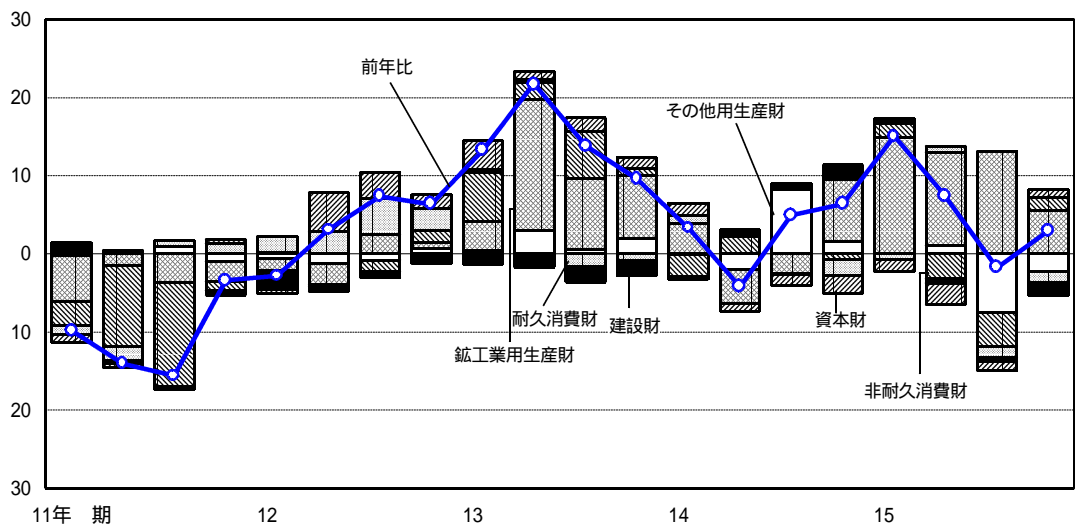
(生産指数前年比、%)



(出荷指数前年比、%)



(在庫指数前年比、%)

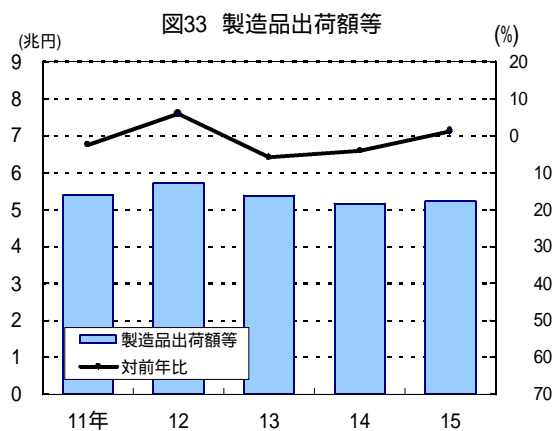


備考 1 福島県情報統計領域「鉱工業指数月報」より作成  
 2 平成12年平均 = 100  
 3 生産・出荷指数は原指数の平均値、在庫指数は期末値

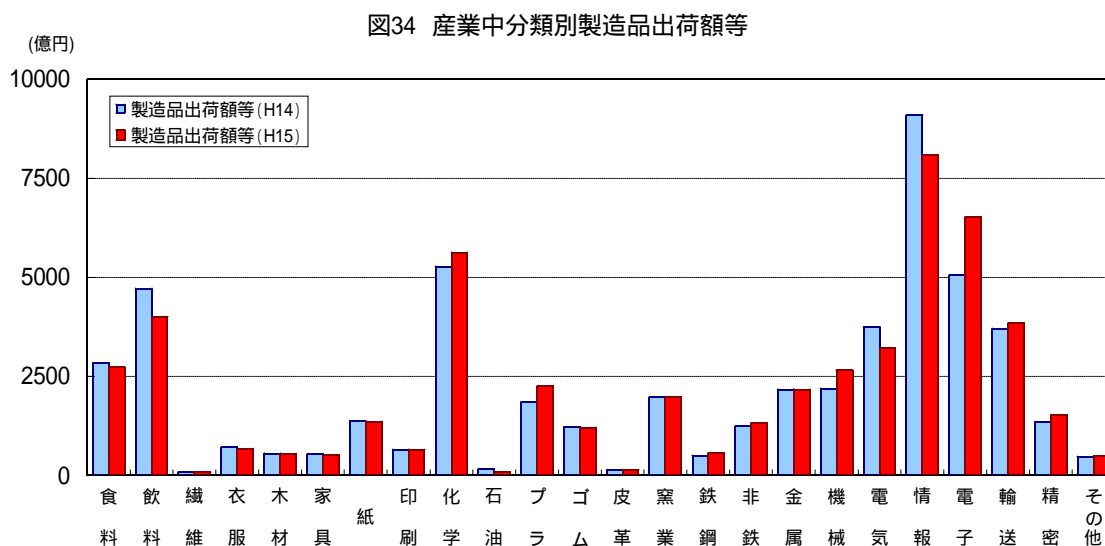
#### (4) 製造品出荷額等

平成15年の県内製造業の製造品出荷額等は、5兆2165億円となり、前年に比べ614億円増加(1.2%増)し、3年振りに前年を上回った(図33)。

前年に比べ製造品出荷額等が増加した産業は(図34)、「電子」で1474億円の増加(前年比29.2%増)、「機械」で463億円の増加(同21.1%増)など11産業となっている。一方、減少した産業は、「情報」で1014億円の減少(同11.2%減)、「飲料」713億円の減少(同15.1%減)、「石油」で77億円の減少(同48.0%減)など13産業となっている。



備考 福島県情報統計領域「平成15年工業統計速報」より作成



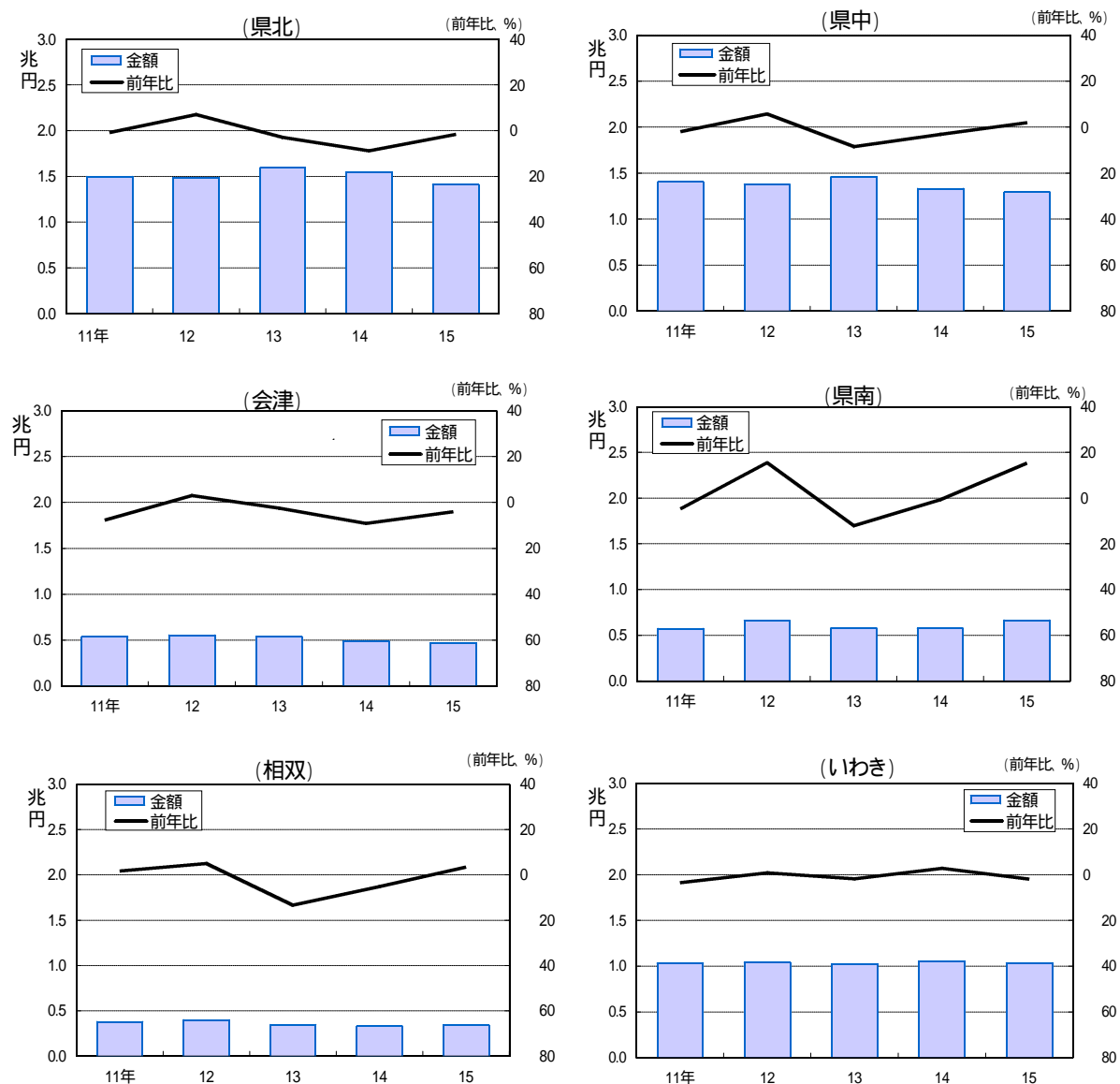
備考 福島県情報統計領域「平成15年工業統計速報」より作成

(参考) 県内各地域における主な指標の動き

### 製造品出荷額等

県内の地域別の製造品出荷額等の推移をみると(図35)、県南地域、相双地域、県中地域は3年振りに前年を上回り、それぞれ前年比15.3%増、3.4%増、1.9%増となった。その一方で、いわき地域は2年振りに前年を下回り1.9%減、県北地域、会津地域は3年連続で前年を下回り、それぞれ1.7%減、4.0%減となった。

図35 地域別製造品出荷額等(前年比)の推移



備考 福島県企画調整部情報統計領域産業統計グループ「工業統計結果報告書」より作成

## ( 5 ) 大口電力使用量と大口契約最大電力

平成 15 年の大口電力使用量(月平均)は、446 百万 kwh となり、前年に比べ 4.4%増加し 5 年連続で前年を上回った(図 36)。

また、大口契約最大電力(月平均)は、1249 千 kw となり、前年に比べて 1.1%増加し 2 年振りに前年を上回った。

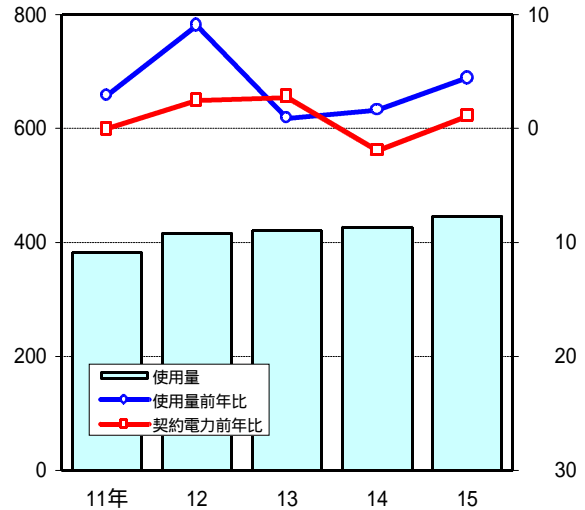
四半期別に見ると、使用量は 13 年第 四半期を底に徐々に減少幅を縮め 14 年第 四半期には前年を上回り、15 年第 四半期の前年比 8.4 %増加をピークに前年を上回って推移している。

契約最大電力も使用量の動きを追う形で、14 年第 四半期を底に、14 年第 四半期には 5 期振りに前年を上回り、その後 1 %前後の伸びで推移している(図 37)。

使用量の伸びが契約最大電力の伸びを上回る場合には、各工場設備の稼働率の上昇局面にあり、生産を増加させていると考えられ、逆に契約最大電力の伸びが使用量の伸びを上回る場合には、稼働率を低下させているとみることができる。

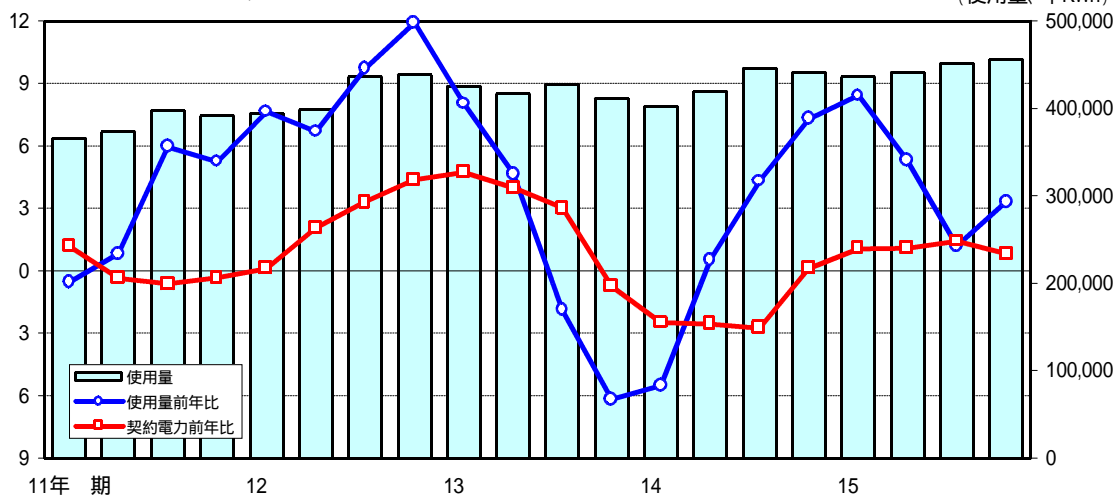
そこで、使用量と契約最大電力を前年比の動きで比較してみると(図 37)、14 年第 四半期から使用量の伸びが契約最大電力の伸びを上回り、15 年第 四半期をピークに第 四半期には使用量の伸びが一時的に下回ったものの、その後再び上回り、平成 15 年は全体の動きとしては、稼働率の上昇が継続した。

図36 大口電力使用量、大口契約最大電力、  
(使用量、百万kwh) (前年比、%)



備考 1 東北電力株式会社福島支店「大口電力需要総括月報」より作成  
2 月平均値

図37 大口電力使用量、四半期別大口契約最大電力  
(契約電力・使用量前年比、%) (使用量、千KWh)



備考 東北電力株式会社福島支店「大口電力需要総括月報」より作成